

対策案の検討について

③ フィーダー交通の検討について

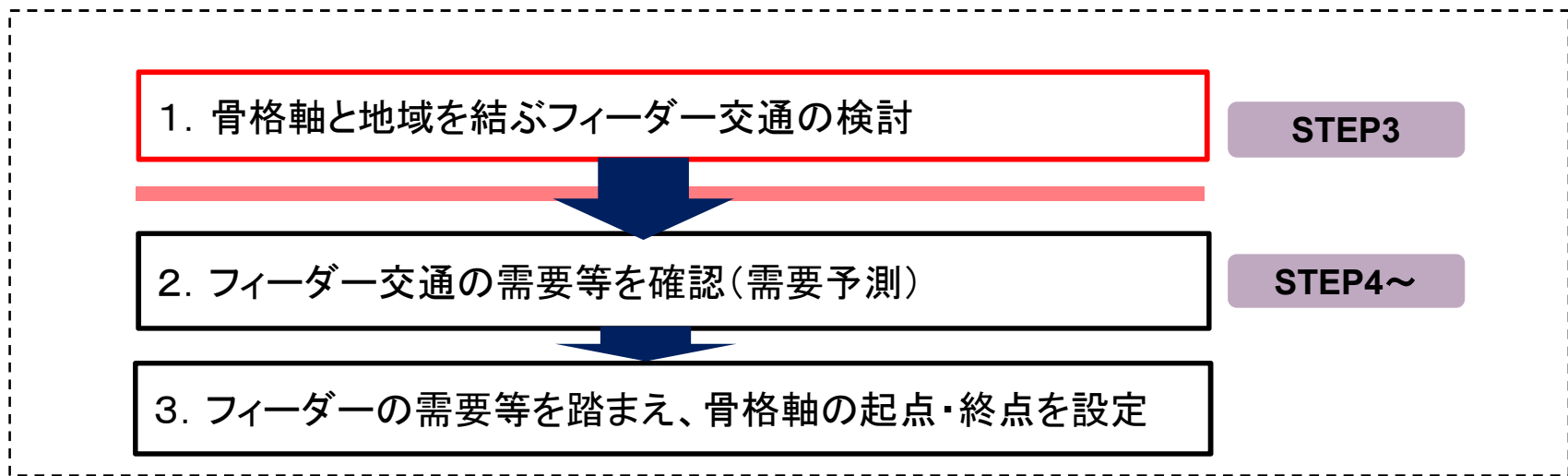
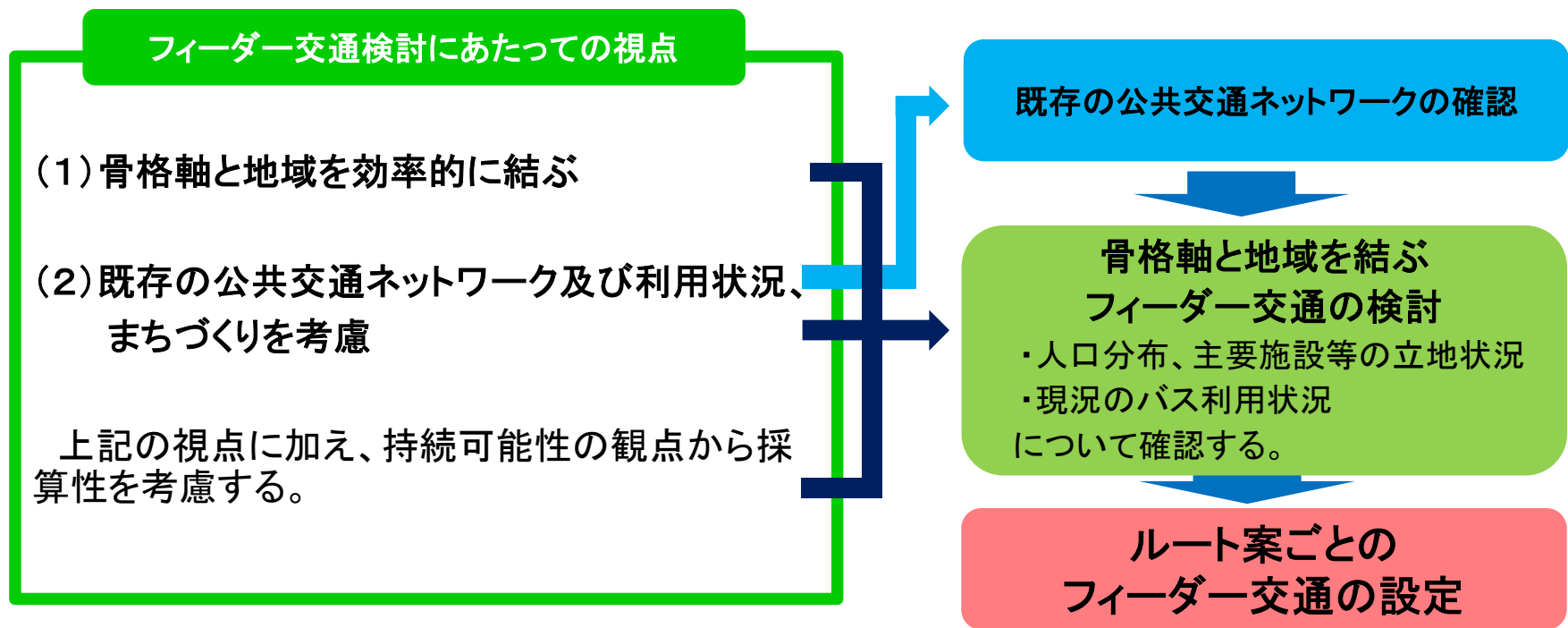
平成28年4月19日
沖縄県



目次

- 1. フィーダー交通の検討手順1
- 2. 骨格軸と地域を結ぶフィーダー交通の検討2
 - 2-1 既存の公共交通ネットワークの確認
 - 2-2 人口分布、主要施設等の確認
- 3. 骨格軸とフィーダー交通が連携する公共交通ネットワークのイメージ ...7

1. フィーダー交通の検討手順



2. 骨格軸と地域を結ぶフィーダー交通の検討

2-1 既存の公共交通ネットワークの確認

- バスやモノレールなど既存の公共交通ネットワークは、人口分布や空港・港湾、集客施設など主要施設等を考慮し形成されている。
- 北部は名護、中南部は那覇を中心とした公共交通ネットワークにより、各地域が結ばれている。

既存の公共交通ネットワークを踏まえ、フィーダー交通を検討する。

沖縄本島のバス系統別路線図およびモノレール路線 (概略図)



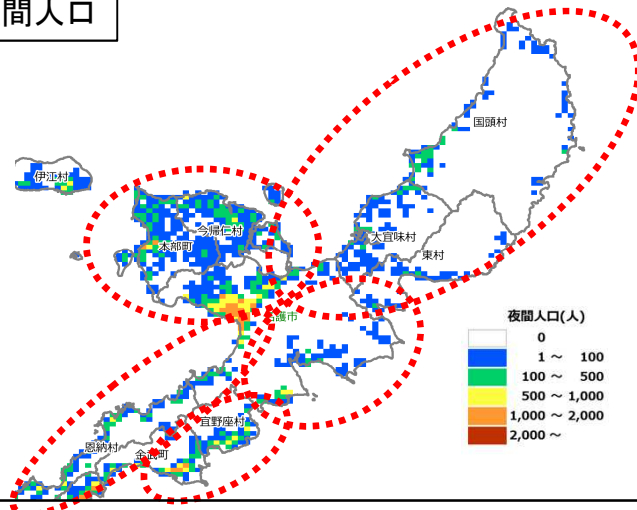
※図は、同一の市町村間を運行する系統を統合し表示 (太さは系統数・運行本数を考慮して整理)

2. 骨格軸と地域を結ぶフィーダー交通の検討

2-2 人口分布、主要施設等【北部】

- 夜間人口は、名護市の市街地に多く、その他町村に広く分布している。
- 主要施設等は、本部港や運天港、海洋博記念公園、万国津梁館、沖縄科学技術大学院大学が立地。西海岸に宿泊施設が集積している。

夜間人口



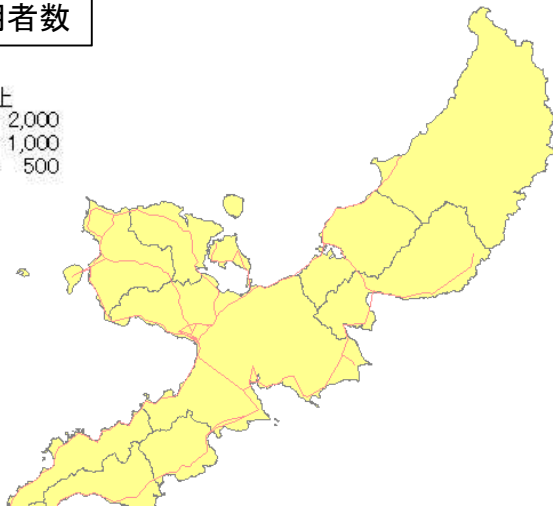
宿泊施設の客室数
※客室数300室以上
(町丁目ごと)を表示



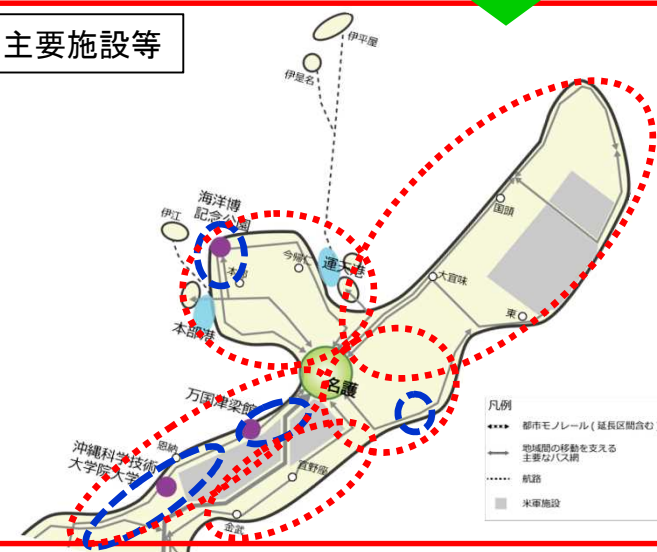
現況バス利用者数

単位: 人/日

2,000以上
1,000 ~ 2,000
500 ~ 1,000
0 ~ 500



人口、主要施設等





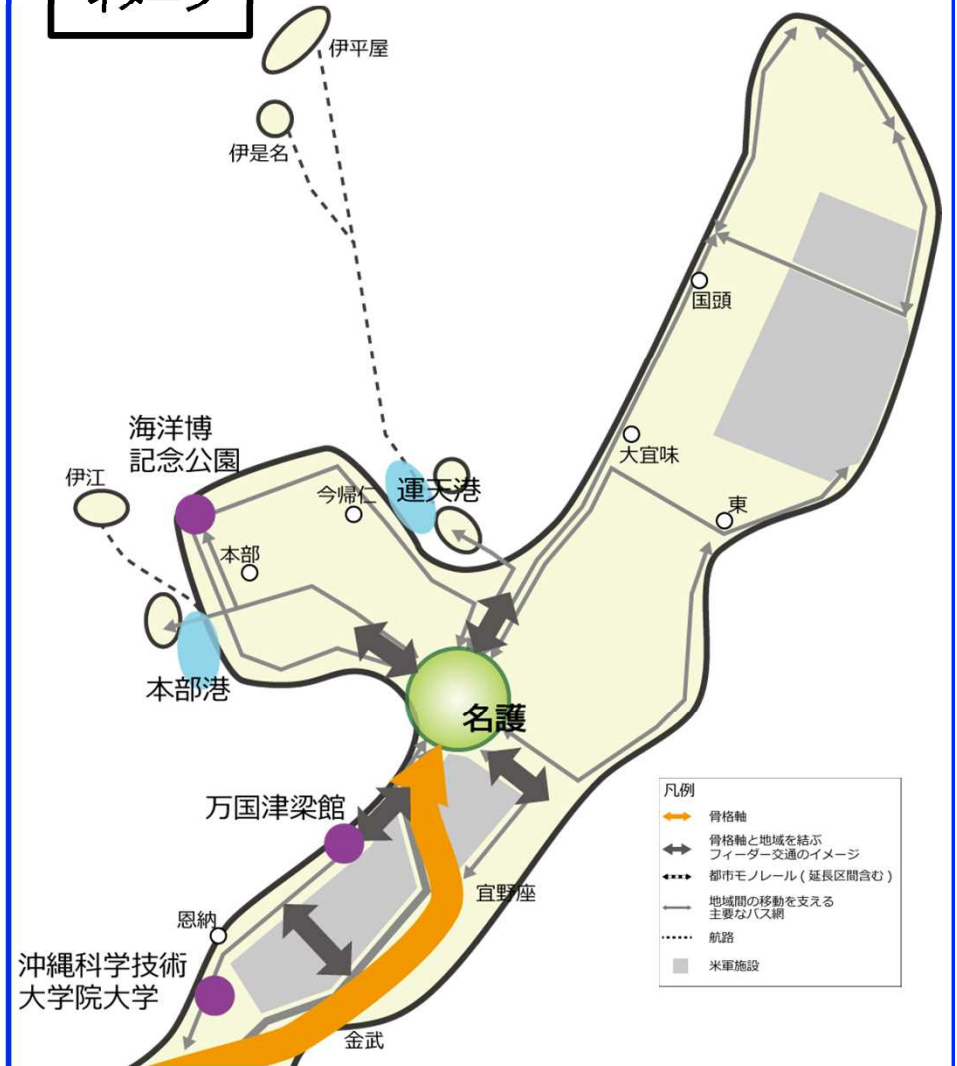
北部西ルート

イメージ



北部東ルート

イメージ

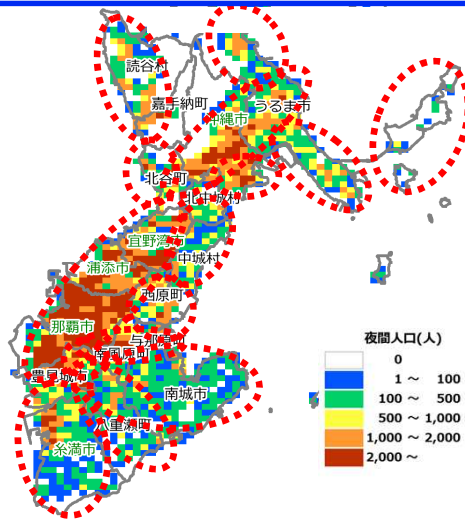


2. 地域と骨格軸を結ぶフィーダー交通の検討

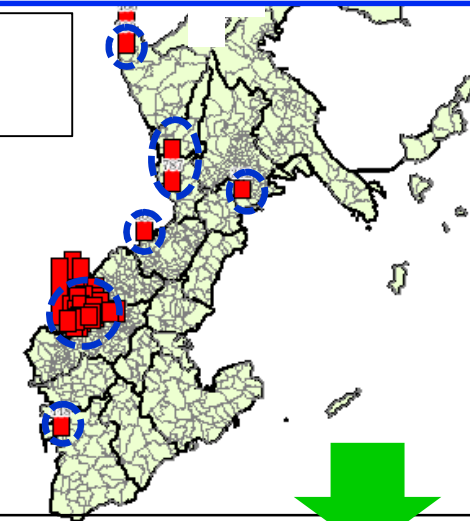
2-2 人口分布、主要施設等【中南部】

- 夜間人口は那覇市、浦添市、宜野湾市、沖縄市に集積し、その他地域にも広く分布している。
- 主要施設等は、那覇空港、那覇港、中城湾港のほか、コンベンションセンターや大型MICE施設（建設予定）が立地。宿泊施設は、那覇市に集積し、読谷村、北谷町、宜野湾市、沖縄市、糸満市にも立地する。
- 現況のバス利用は、那覇～沖縄、那覇～与那原が多く、豊見城、八重瀬、北谷、うるまも比較的多い。

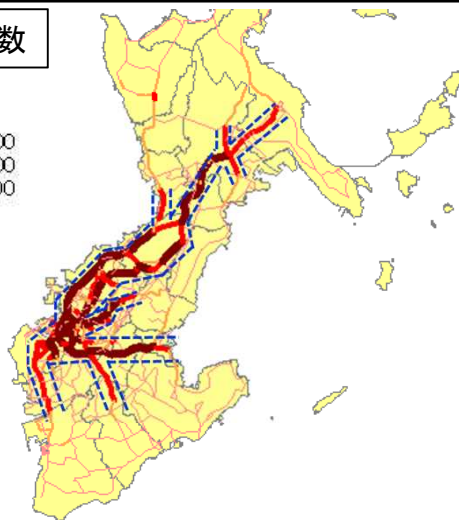
夜間人口



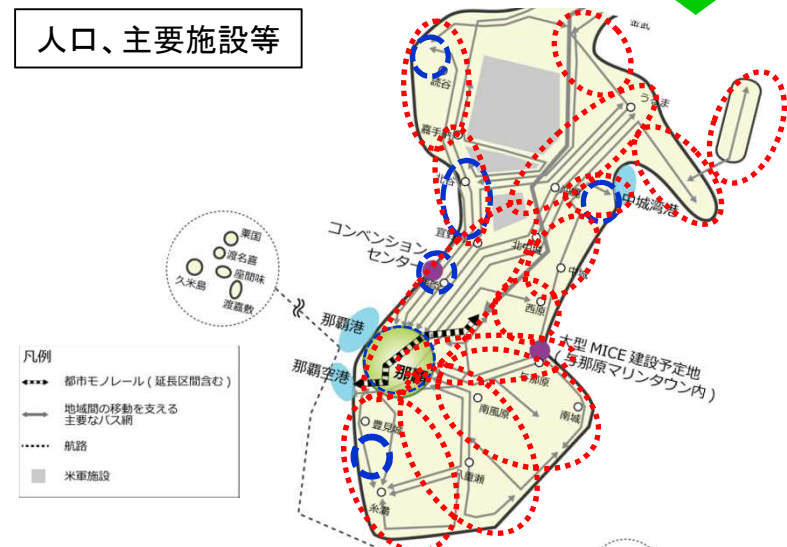
宿泊施設の客室数
※客室数300室以上
(町丁目ごと)を表示



現況バス利用者数



人口、主要施設等



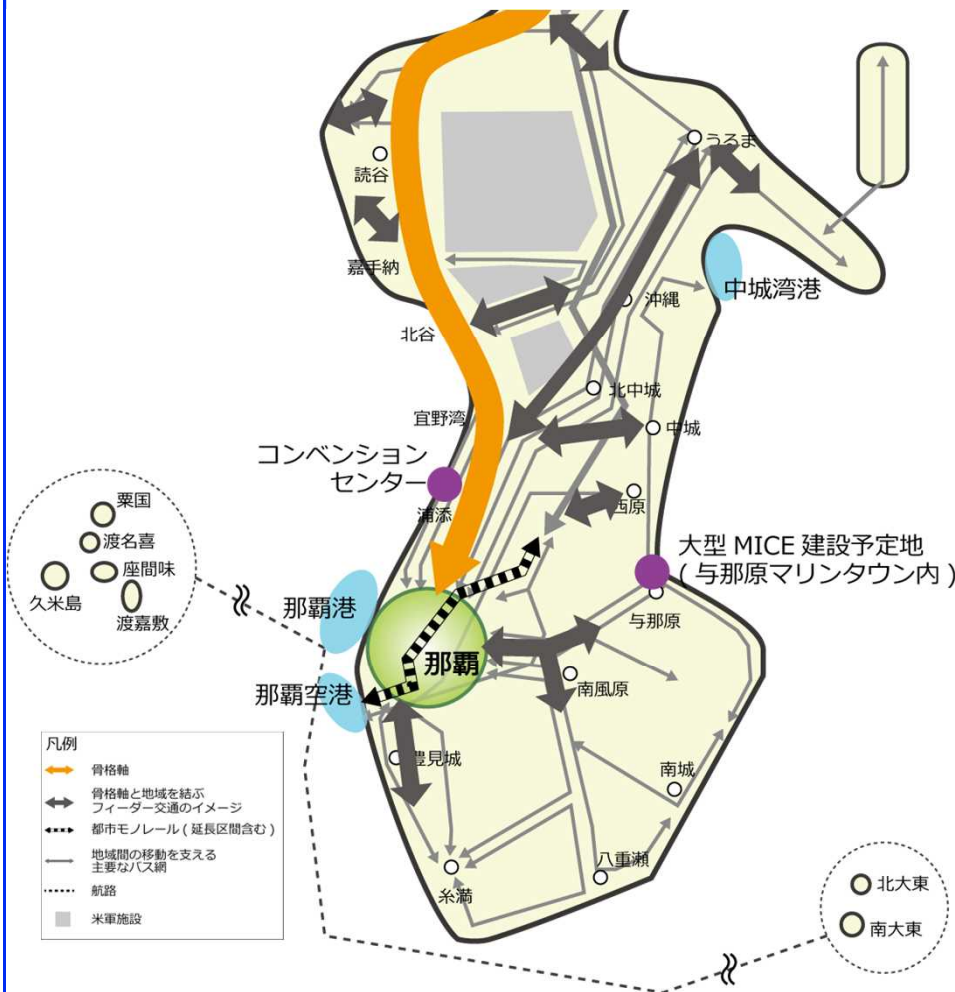


中部西ルート

中部東ルート

イメージ

イメージ

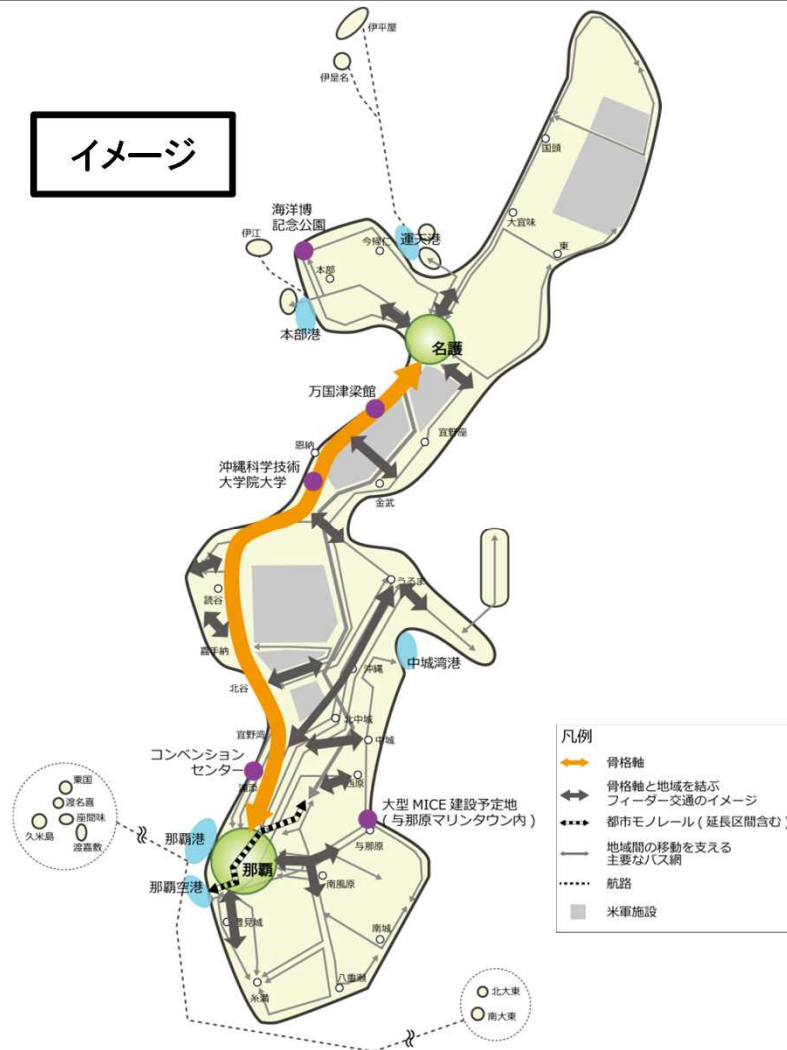


3. 骨格軸とフィーダー交通が連携する公共交通ネットワークのイメージ

- 既存の公共交通ネットワークや現況のバス利用状況等を考慮すると、各ルート案ごとの「骨格軸とフィーダー交通が連携する公共交通ネットワークのイメージ」は以下のとおりとなる。
- なお、フィーダー交通の需要等については、ステップ4で確認する(需要予測)。

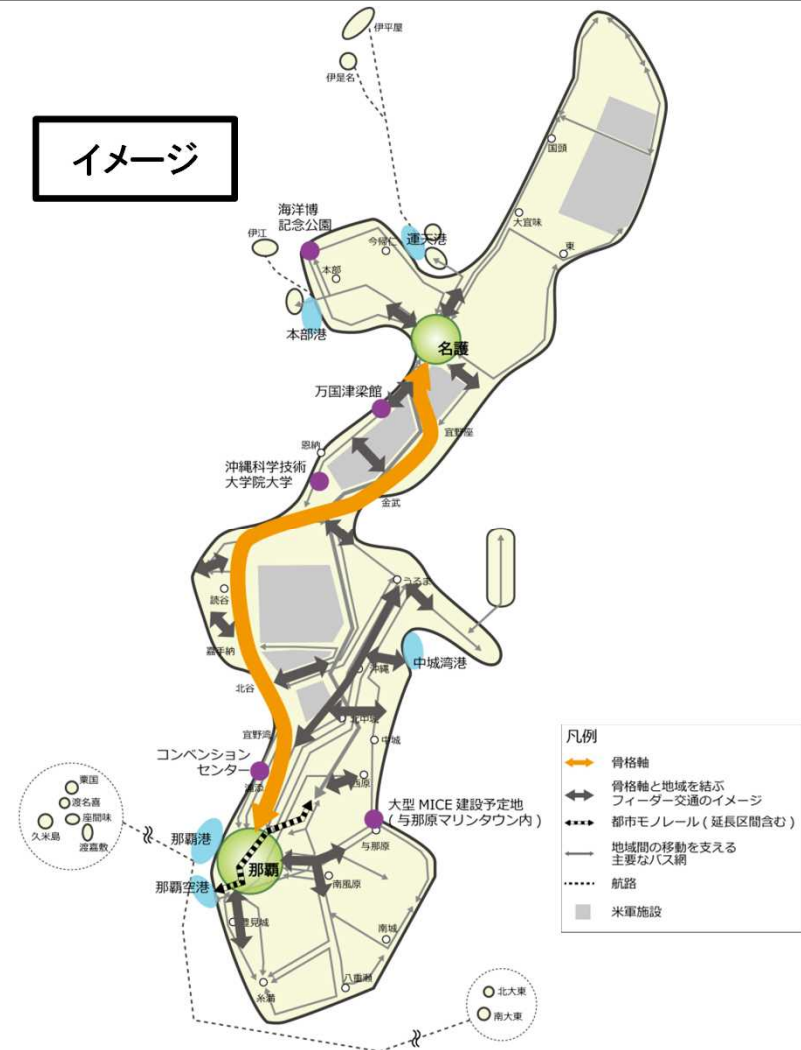
骨格軸A案(中部西・北部西ルート)

イメージ



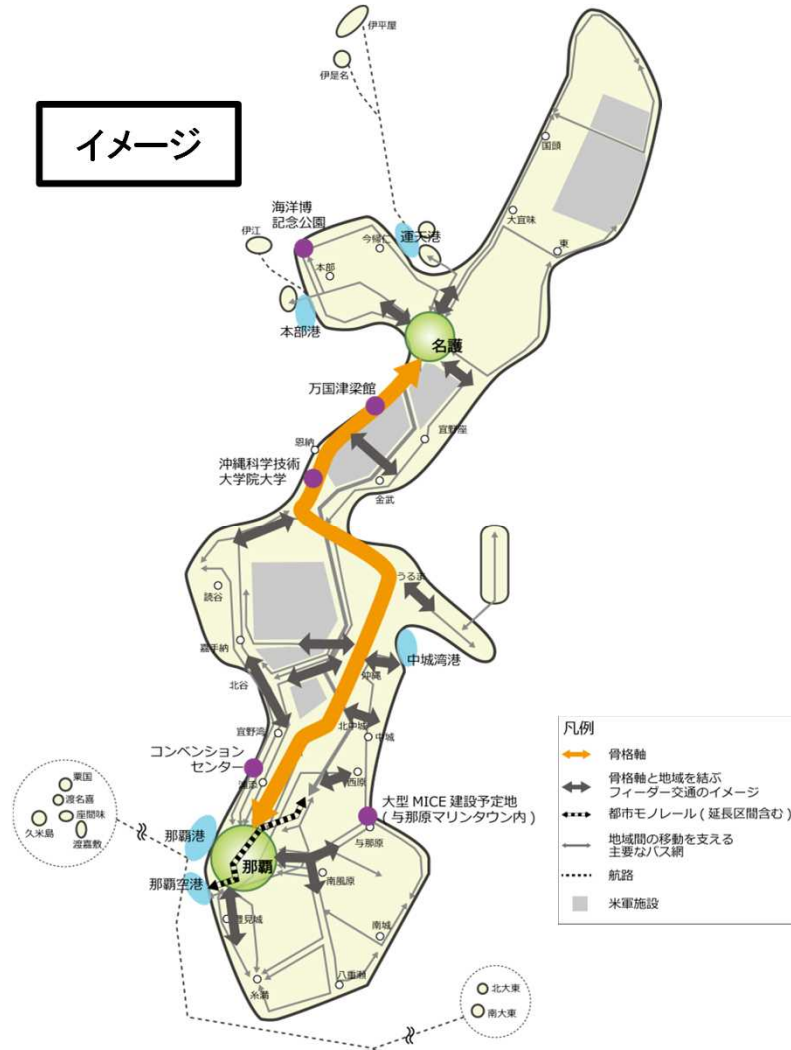
骨格軸B案(中部西・北部東ルート)

イメージ



骨格軸C案(中部東・北部西ルート)

イメージ



骨格軸D案(中部東・北部東ルート)

イメージ

